

【配偶者（夫）が外国籍の場合】

(注) 黒いボールペンで記入し、消えやすいインクや鉛筆は使用しないでください。記載内容を訂正する場合は、修正液や修正テープを使わずに二重線を引いて消除し、拇印または印鑑を押してください。届書右の証人欄の記入は不要です。

# 婚姻届

平成 27 年 11 月 10 日届出

在ポルトガル日本国 大使館 総領事 殿

受理 平成 年 月 日		公館印				
第 号						
送付 平成 年 月 日		公館印				
第 号						
書類調査	戸籍記載	記載調査	調査票	附票	住民票	通知

外国籍の配偶者の氏名は中点(・)やハイフン(-)を使用せず、フルネームで記入

出生年は、日本人は年号で、外国人は西暦で記入

行政単位は日本と異なるが、市(concelho)や区(freguesia)を記入

本籍はハイフン等で略さず、戸籍にあるとおりに記入

氏名は中点(・)やハイフン(-)を使用せず、「氏」「名」の順番にフルネームで記入  
日本人の父母が婚姻関係にある場合、母親の「氏」を記入する必要なし

配偶者が外国籍の場合、氏に変更がないので、チェックの必要なし

同居を始めたとき

初婚・再婚の別

同居を始める前の夫婦のそれぞれのおもな仕事

夫妻の職業

その他

届出人

署名押印

夫

妻

山田 晴子

事件簿番号

届出人の連絡先及び電話番号

+ 3 5 1 - 2 1 - 3 1 1 0 0 0 0

国番号から記入

(よみかた)	夫 にな る 人		妻 にな る 人	
	やまだ		はるこ	
氏 名	氏	名	氏	名
	ソアレス レイス	ジョアン マヌエル	山田	晴子
生 年 月 日	1980 年 8 月 2 日		昭和58 年 4 月 10日	
住 所	ポルトガル共和国リスボン市ベレン区		同左	
	ベルギー通り 10	番地 1階右号	番地 番 号	番地 番 号
本 籍	ポルトガル共和国		東京都世田谷区三軒茶屋	
	番地 番	1丁目30	番地 番	
父母の氏名 父母との続き柄 (他の養父母は その他の欄に 書いてください)	父	ソアレス レイス マヌエル	父	山田 太郎
	母	グレ レイス マリア	母	宏子
婚姻後の夫婦の氏・新しい本籍	<input type="checkbox"/> 夫の氏	新本籍 (左の☑の氏の人ですすでに戸籍の筆頭者となっているときは書かないでください)		
	<input type="checkbox"/> 妻の氏	東京都世田谷区三軒茶屋1丁目30 番地 番		
同居を始めたとき	平成27 年 9 月 (結婚式をあげたとき、または、同居を始め) たときのうち早いほうを書いてください			
初婚・再婚の別	<input checked="" type="checkbox"/> 初婚 再婚 (☐死別 ☐離別 年 月 日)		<input checked="" type="checkbox"/> 初婚 再婚 (☐死別 ☐離別 年 月 日)	
同居を始める前の夫婦のそれぞれのおもな仕事	夫	妻	1. 農業だけまたは農業とその他の仕事を持っている世帯	
	夫	妻	2. 自由業・商工業・サービス業等を個人で経営している世帯	
夫妻の職業	夫	妻	3. 企業・個人商店等(官公庁は除く)の常用勤労者世帯で務め先の従業者数が1人から99人までの世帯(日々または1年未満の契約の雇用者は5)	
	夫	妻	4. 3にあてはまらない常用勤労者世帯及び会社団体の役員の世帯(日々または1年未満の契約の雇用者は5)	
その他	夫	妻	5. 1から4にあてはまらないその他の仕事をしている者のいる世帯	
	夫	妻	6. 仕事をしている者のいない世帯	
届出人	(国勢調査の年... 年...の4月1日から翌年3月31日までに届出をするときだけ書いてください)			
署名押印	夫		妻	
事件簿番号	山田 晴子		印	

証 人		
署 押 名 印	印	印
生 年 月 日	年 月 日	年 月 日
住 所	番地 番 号	番地 番 号
本 籍	番地 番	番地 番

### 記入の注意

- 届書はすべて日本語で書いてください。  
この届出は長年保存されますので、鉛筆や消えやすいインキで書かないでください。
- 「筆頭者の氏名」欄には、戸籍のはじめに記載されている人の氏名を書いてください。
- 日本と外国の二つの国籍をもっている人は、日本人として本籍欄を書いてください。  
当事者の一方が外国人のときは、本籍欄に「国籍何国」とだけ書いてください。
- 父母がいま婚姻しているときは、母の氏は書かないで、名だけ書いてください。  
養父母についても同じように書いてください。
- ☐には、あてはまるものに☑のようにしるしをつけてください。ただし、外国人と婚姻する場合にはつけなくてください。  
外国人と婚姻する人が、まだ戸籍の筆頭者となっていない場合には、新しい戸籍がつくられますので、希望する本籍を書いてください。
- 届を出す日に同居を始める人は、その日に同居したものとしてその年月を書いてください。  
まだ同居を始めていない人は、その他の欄に「まだ同居を始めていない。」と書いてください。
- 再婚のときは、直前の婚姻について書いてください。  
内縁のものはふくまれません。
- ☐ 夫 ☐ 妻 に当てはまると思うものに☑ 夫 ☑ 妻 のようにしるしをつけてください。
- 在留国の法律で婚姻したときは、婚姻した日から3か月以内に婚姻証明書をそえて出してください。この場合は証人欄は書かず、「その他」欄に婚姻成立年月日、婚姻の方式及び婚姻証書作成者の職名を記載してください。  
外国文の証明書には翻訳者を明らかにした訳文を添付してください。  
当事者の一方が外国人のときは、在留国の法律で婚姻してから出してください。この場合、外国人の国籍を証する書面(旅券写し等)を提出してください。
- 未成年者が婚姻するときは、父母(養子のときは養親)の同意書を出すか、または父母がその他の欄に同意の旨を書いて署名押印してください。
- 届出人や証人の署名は、はっきりとよめるようにそれぞれ本人が書いてください。なお、外国人が外国語で署名する場合は、その「よみかた」をカタカナで併記してください。
- 夫婦がともに日本人のときは、届書3通(新しい戸籍がつけられる場合に今までと別の市区町村につくりたいときは4通)、夫婦の一方が外国人のときは、届書2通(新しい戸籍がつけられる場合に今までとは別の市区町村につくりたいときは3通)出してください。
- 届け出られた事項は、人口動態調査(統計法に基づく基幹統計調査、厚生労働省所管)にも用いられます。